

スマホアプリ
マチイロで
広報いせさき
を配信中!

■廃棄する場合は「雑古紙」としてリサイクルしてください。



魅力ある高校生にインタビュー

明日へ
ジャンプ。

No.190

将来の大きな目標に向かい
ペダルを踏み続ける

伊勢崎興陽高等学校 3年 小館りえさん

伊勢崎興陽高校の自転車競技部に所属し、7月の全国高等学校総合体育大会（インターハイ）へ出場を決めた小館さんに、自転車競技との出会いを聞きました。

「中学生の頃は美術部に所属していました。高校入学後も運動部への入部は考えていましたが、部活動見学で自転車競技に興味を持ち、挑戦することになりました。入部当初は練習についていくのがやつとて、辞めたいと思うこともあります」

苦しい練習にも耐え、入部から1年が経つ頃には頭角を現し始めた小館さん。2年生で初めてインターハイの舞台を経験することとなりました。「2年生の頃は、練習で男子部員についていくことに必死で、インターハイに出場できるかどうかなどは考えていませんでした。出場が決まった時は驚きましたが、結果は予選敗退となってしまっても悔しかったです」

小館さんはこの悔しさを胸に練習を重ね、3年生となつた今年も見事インターハイへの出場を決めました。

「インターハイ出場を決めた

大会では納得のいくタイムを出すことができず、このタイムでインターハイに出場して良いのかという気持ちもありますが、高校生最後の大会なので、表彰台に立つことを目標に頑張りたいと思います」

高校生最後の大舞台を前に意気込みを語ってくれた小館さん。高校卒業後は大学進学を希望していますが、そこには明確な理由がありました。

「高校卒業後も自転車競技を続けていきたいと思います。今の自分にはまだ実力が足りていないと思うので、自転車競技部のある大学に進学して十分な力を付けたいです。そ

して、大学卒業後は競輪の選手になりたいと思っています」

帰宅後は自転車競技者用の筋力トレーニングを自身で調べ行うなど、自主練習にも積極的に取り組んでいる。きれいな景色を見ることが好きで、休日は父の運転する車に乗せてもらい、海や山に行くことが楽しみと話す。



プロフィール

こだて・りえ

帰宅後は自転車競技者用の筋力トレーニングを自身で調べ行うなど、自主練習にも積極的に取り組んでいる。きれいな景色を見ることが好きで、休日は父の運転する車に乗せてもらい、海や山に行くことが楽しみと話す。

編集後記

本号編集期間中、パリオリンピックが閉幕しました。今回の日本選手団の金メダル獲得数・メダル獲得総数は、ともに海外で開催された大会では過去最多となつたそうです。最近は、豪雨や大きな地震などの不安を覚えるニュースが多い中、オリンピック期間中に連日テレビなどで伝えられる日本人選手の活躍には、たくさんの方々の元気をもらいました。次回は4年後のロサンゼルスオリンピック。また日本選手団の活躍が見られることを楽しみにしています。（く）

今月のインフォメーション



本市の人口(2024年8月1日現在)

- 人口 212,067人(前月比+49)
- 世帯数 96,573戸(前月比+121)



市税の納期

- 固定資産税・都市計画税 3期
- 国民健康保険税(普通徴収) 3期
- 納期限は9月30日(月)です
- 問 収納課(☎27-2723)